2018 年 3 月 16 日(金)

平成 29 年度 第 6 回小学校ゼミナール記録(小村班)

参加者：小村孝広(広島大学附属小学校教諭)，西宗一郎(広島大学大学院教育学研究科)，水元千秋(広島大学大学院教育学研究科)

1. 協議事項

小学校算数科 第３学年　単元「表とグラフ」における授業協議

2. 授業の意図と協議内容

本グループでは，2018 年 2 月 9 / 10 日(土/日)に広島大学附属小学校において開催された第 67 回初等教育全国協議会に関して，小村教諭による実践，第３学年算数科/単元「表とグラフ」の事後検討が行われた．本授業は，「課題解決に向けて見通しをもち，目的に応じたデータを選んで計画を立てることができる」ことを目標としていた．目標の実現に向けて，学校前の道路で事故に遭いそうになった児童がいたことを事例に，児童が安全に下校できているのかについてどのようなデータを収集するべきかを考えさせる授業展開であった．協議においては大きく分けて，「問題化」，「データの種類」，「統計的な問題解決」についての議論がなされた。

3. 議論要約

〇問題化について

本授業で児童は，「附属小学校のみんなは安全に下校できているか調べよう」という問題に取り組んだ。それに対して，問題化の段階において「安全に下校できている」とはどういうことかを全体で明確にするべきであった，という意見が出された。実際の授業においても，収集するデータを児童が考察する際に，何をよりどころにして考えればよいのか分からないという状況が見られた。これは，問題化の段階において，問題を統計的に不明瞭なままにしてしまったことが原因と考えられる。問題化の段階で明確な定式化を行うことで，データの取集方法や考察方法を目的に基づいたものにすることができ，それが重要であるという結論となった。

〇データの種類について

本授業で提示されたデータは，〇，△，×といった質的なデータが表にまとまっているものであった。そして，その質的データから量的データへとデータの種類を変えるところにも焦点が当てられた。協議においては，この点は両者のデータの特徴を捉える上で良い点として挙げられた。しかし，小学３年生の統計の学習において，どこまでのことをねらいとするのかについては，更なる議論を要するという意見も出た。

〇統計的な問題解決について

今回扱った授業の良かった点として，児童自身の事柄として統計的な問題解決を行うことができたことが挙げられた。生活を見直し，データに基づいて判断した後にその結果を児童は自分自身のこととして捉えることが期待できた。統計の授業を行う際には，このように自分の生活に落とし込めるような題材や流れを意識することも大切であるという意見が出た。

(文責：水元 千秋，西 宗一郎)